



お洒落にファッショナブルに 日常使いの風呂敷をお届け



代表取締役の林利治さん

知識・ノウハウ× 加工先の技術で 多様化するニーズに応える

伝統的な防染技法を使った、木綿素材の風呂敷を企画・製造卸販売している。唐草模様や市松模様など、単色でありながらシンプルで美しく、取り扱いも容易なことから、和装業界やギフト業界を中心に多くのお客様を抱えている。

その一方で、近年ではタペストリーやテーブルウェアとして楽しむユーザーが増え、風呂敷にもファッショ



丸和商業株式会社

代表者／林 利治
住所／京都市中京区壬生賀陽御所 18-3
TEL／075-801-0536
<http://www.furoshiki-kyoto.com/>

事業内容／ふるしき・ふくさ・のれん・
染物・雑貨 製造卸販売

性が求められるようになってきている。「多色化のニーズにも積極的に取り組んでいる」と社長の林利治さん。例えば、キャラクターを描いた風呂敷を作りたい…というお客様の要望には、工場と連携し、何度も試行錯誤を繰り返して、色の再現性の問題などをクリア。新たな商品開発につながった。現在では、防染はもちろん、捺染、引染、インクジェットなど多くの加工協力先を開拓し、幅広い受注に応える体制を整えている。

使ってみたい、
買ってみたい！
風呂敷の魅力ある
楽しみ方を提案

2011年、自社独自のブランド「コトノワ」を立ち上げた。風呂敷市場が縮小する中、「新たなデザインと用途開発を目指した」と林社長。フィンランドのデザイナーとコラボした風呂敷シリーズは、明るくビビッドな色使い、北欧の風景をデザイン化した愛らしい絵柄が人気で、今まで風呂敷に関心のなかった20〜30代の若い女性客の掘り起こしにつながったという。

3年前には、京商の海外販路開拓支援事業に参画し、フランスのデザイナーと協働で風呂敷バッグ等の開発に取り組んだ。オリジナルの「TSUNAGU ハンドル」を使い、風呂敷を結ばなくてもバッグにできるなど、遊び心あふれる使い方、楽しみ方を提案。「結び」「守る」「伝える」のコンセプトを生かしつつ、風呂敷に新たな魅力を加えることで、海外市場だけでなく、国内のセレクトショップや雑貨店などでの取り扱いが広がっている。



今年7月から新発売の「風呂敷サコッシュ」



防染で風呂敷を染める様子



フランスのデザイナーと開発した「TSUNAGU ハンドル」を使った風呂敷バッグ



★ Point.1 豊富なネットワーク

数多くの染色工場・縫製工場と信頼関係を構築し、お客様が希望するデザインや数量等に応じて最適な素材と技術を使い分けることで、小ロット生産、低コスト、短納期での対応を可能にする。

★ Point.2 異分野との連携

風呂敷以外のジャンルで活躍するデザイナーやプロデューサー等と連携。異分野の発想を積極的に取り入れ、従来のデザインや色柄、使い方、楽しみ方にこだわらない現代ニーズに合った風呂敷を開発。

★ Point.3 新たな市場展開

風呂敷バッグやサコッシュ(ショルダータイプのバッグ)等の開発で、和装・ギフト市場だけでなく、ライフスタイルやファッション関連の店などで取り扱いが広がり、新たな客層の掘り起こしにつながっている。

応援します！ 経営革新・知恵の経営に取り組む企業のご相談にお応えします。
【相談無料】TEL.075-341-9781
中小企業支援部 知恵産業推進課

マーケット・インの発想で
お客様の心に響くものづくり

ライフスタイルが大きく様変わりしつつある今、当社では風呂敷を日常使いのアイテムにまで押し広げるものづくりを進めている。一昨年に参画した京商の国内販路開拓支援事業では、これまで培ってきた風呂敷の縫製・染色技術、色柄、デザイン、加工ネットワーク等を活用し、肌に優しいオーガニックコットンを使った、赤

ちゃんの「おくるみ」を開発。ライフスタイルやファッション、ペーパー関連など、従来の枠組みにとらわれない市場に目を向けることで、風呂敷の新たな可能性を見出そうと考えている。
「プロダクト・アウトではなく、お客様が望むマーケット・インの発想を大切にしたい」と林さん。結び目をはらりとほどけば、そこには私たちがわくわくさせるような風呂敷の魅力が一杯詰まっている。